



刃物語

2014 The full complement version

ADULT ONLY

たったったっ

おーい
先輩〜！

たっ
たっ

03

スパッツすらも
履いてねえ

ズー
わっ！

どうしたっ？
まるで昼間に顔でも
見たような顔色じゃないか
アララギ先輩

僕が見たのは
ノーパンで嬉しそうに
走り跳ねる
可哀想な後輩の姿だ



数々の怪羅場を
エロ魂一つで
乗り切ってこられた
先輩とも思えぬ
狼狽ぶりだな

呆れてるんだ
あとエロ魂とか
そんな響きのいい
下劣な魂は持ってない

ぞんざん



しょぼくれた背中が
とぼとぼ囂る姿を見て
これはもう元気づけて
差し上げようとして

ふるふる

侮蔑交じりの
激励は
やめろ！



これでは物足りぬと？
さすが私のエロ師匠
次こそは期待に応えて
全裸で追いかけろぞ

あははは

おまわりさーん
こいつを早めに
補導してやって下さい



一慌ててスパッツを
脱いで走って
追いかけて来て
みたのだが！

その意気は良いが
何故に脱いだ
スパッツを

ズツ



そんな大きな声は
通学路のご近所に
迷惑ではないか
先輩

おまえは
存在と行為が
迷惑そのもの
なんだよ

どよん



言いつへれば
いつでも
お相手仕るがの

黙れ偽幼女
僕はロリコンじゃない



なんだよ忍
なんか文句
あるか！

さすがのわしも
その有様を見て
感嘆の音を上げる程
人間が……いや
怪異が
出来ておらん



ふむ……



た、たまたま
買った雑誌だ
気のせいだ
僕は知らん

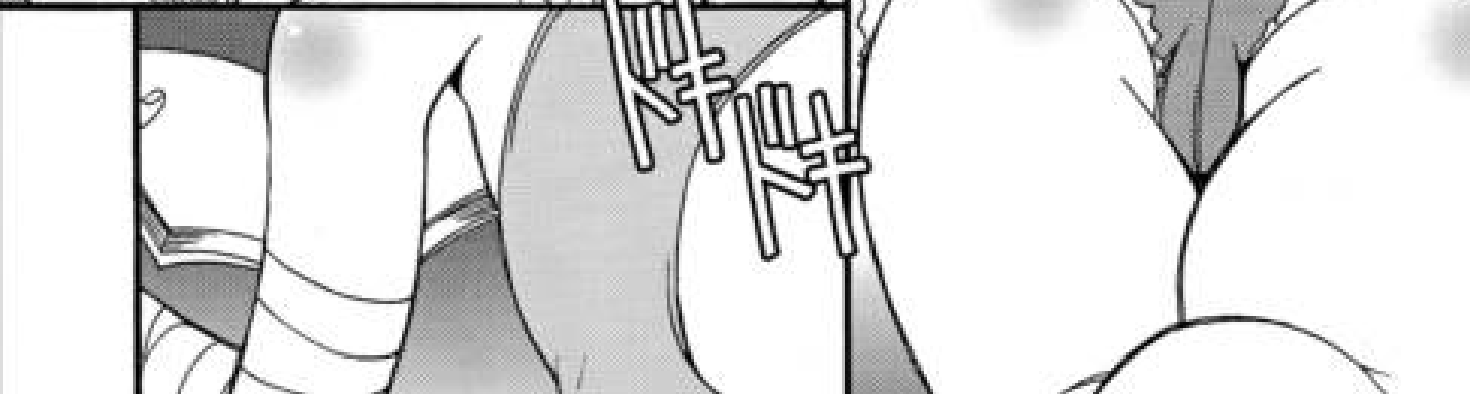
知り合い似の娘の
写真がお気に入りとは
よい趣味じゃの



♪ちゃ~ちゃらちゃらん

相 棒

(閑話体題)



指先が肌に触れただけで
体に電気が走ったようだ



体が熱い

麻さだした欲情は
行き場を求めて暗闇を
往く蛇のように執拗に
私を苛む



こんな気分の時
いつも脳裏に
浮かぶのは……



こうなってるから
この手を使ったことは無いな

太くて毛深い……
まるで男性のシンボル
そのものように



09

先輩……

欲求を満たすには
私の想像力が創造性に
欠けて過ぎてているようだ



カンバラ
さあセックスをしましょう
こっちへ来なさい



……戦場ヶ原先輩
そのお間抜けなポーズ
気に入ってます？

センパイ……



どうしたんだい
こんな時間に

主様の手淫を
覗いておったら
追い出されたのじゃ

『幼女の目前で自慰行為とは極めつけの変態だな』
『お前が言うな』

わが主様の名を呼びながら
いったいどういう妄想に
耽っておったことやら

いやあ

照れるな
褒めてはおらん

又キ

お前様のような
霊媒体質の人間は
そばにおって心地よいのでな
……っつて
どうして服を脱ぐのじゃ

いやあ

だから
褒めてはおらん

さあ私は
すっかり全裸だが
忍ちゃんは服がないのか

馬鹿なのか
馬鹿なのじゃな

覗しき仲にも
裸の付き合いだぞ

寄るな触るな
食ってやろうか！

裸の付き合いと
言えば風呂だ

カコー

純和風の造りか
ヒノキの香りが
芳しいわい

アララギ先輩の
家のは
どんな風呂
なんだい

うむ、この作品の
一番の謎はあの浴室の
構造と広さだと思うぞ

悪いが
背中を流して
くれんかの

ああ
お安い御用だ

思わず吸い付きたく
なるような白く
透き通った肌だ

なんじゃ
くすったい
のわ

ふふふ触れてもいいよな
ああ
いいに決まってるさ
女の子同士だもの！

血迷うでない
この二時勢に！

でえええい！

攻められっぱなしじゃ
我が真名が泣くわ！

望み通り人として味わえる
快楽の極みを
お前の体に刻んでやるわ

その長い名前に
まさか百合の女王的な
意味があったとか

キスショット
アセロラオリオン
アンダーブレード

カァッ！ ハート
アッ！

絶頂に至った獲物の
血の味はまた格別
じゃしな

本物の化け物の
恐ろしさを
忘れていた



愛らしい少女の姿に
感わされてしまった

こんなものでも
無ければ
楽しめんな

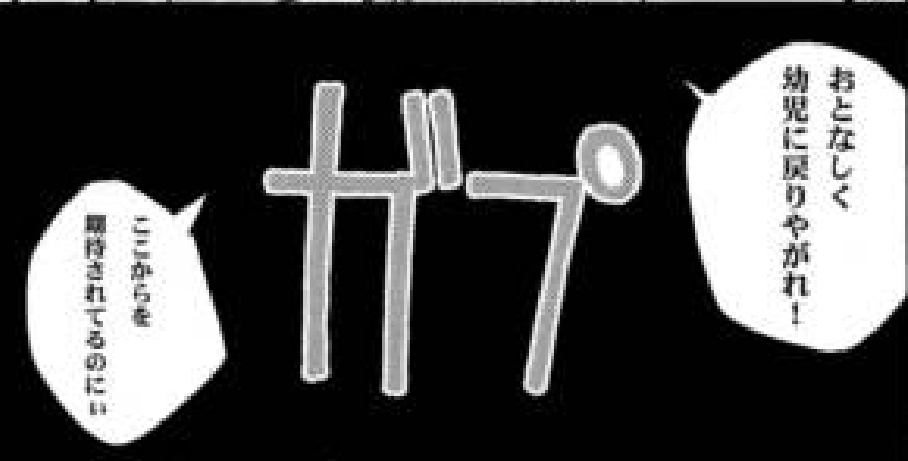
ニキッ

真の性奴隷に
堕してやろう

それは世界で一番の怪異
怪異の中の怪異
怪異の王の戯れの姿に過ぎなかったのだ

先輩……
助けてセンパイ





どうしてこの人の顔が
一番に浮かんだんだろう

迷惑かけたな
帰るわ

いや
迷惑だなんて
.....

真っ先に思い浮かべるべきは
戦場ヶ原先輩である筈なのに

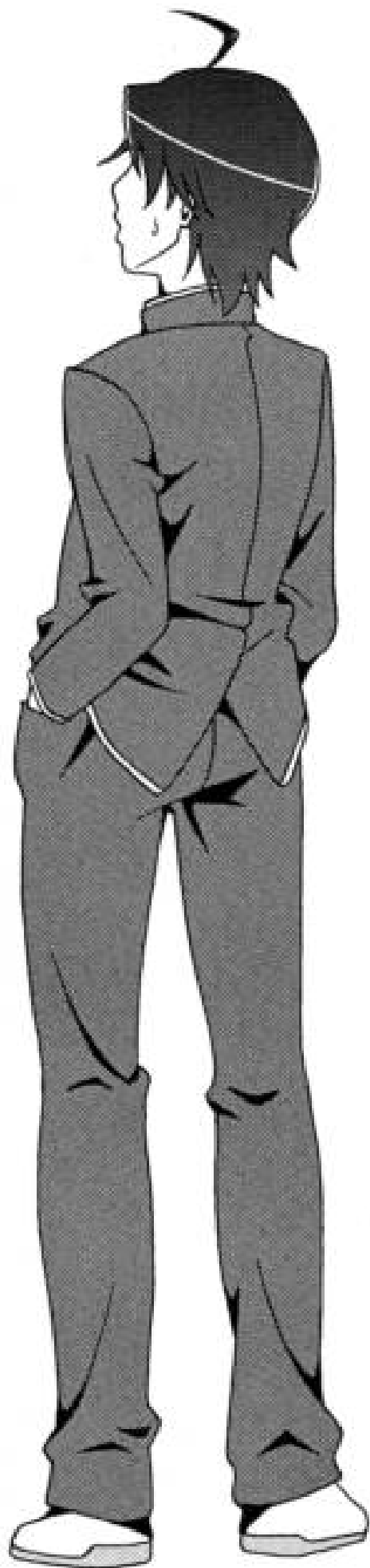


まあ
気の迷いだな
きつと

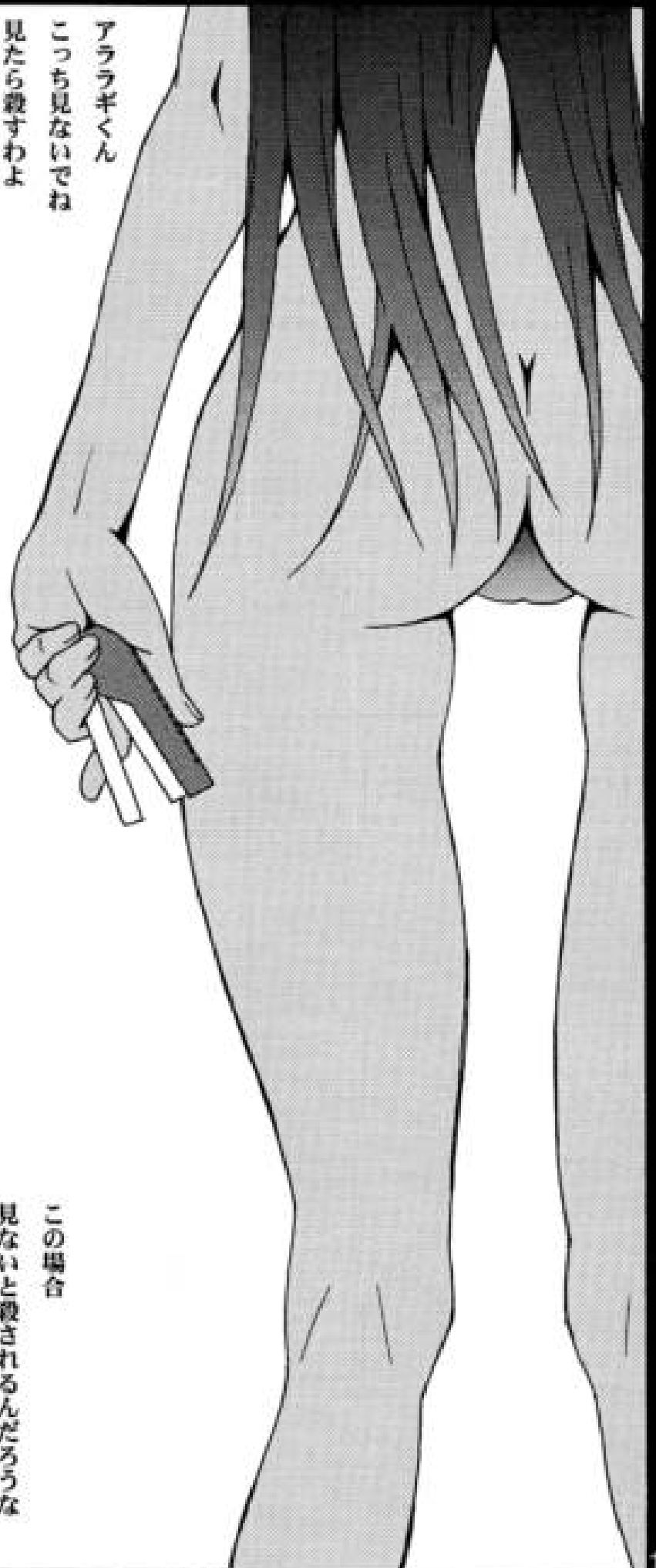


END

アララギくん
こっちは見ないでね
見たら殺すわよ



この場合
見ないと殺されるんだろ
うな
きつと……





見たわね

わたしの恥ずかしい姿……

いいえ殺しはしないわ

殺しはね

うふふふふふふふふふふふふ

いいんだ
そんなお前に惚れたんだ

世界の終焉に立ち会ったのが
吸血鬼の成り損ないと吸血鬼の
成れの果てだったというのほ
なにかの因果なのだろうか

……どうして
裸なんだ

構わぬ
誰に憚ると言うのじゃ
我が主様よ

空虚な光景が生んだ妙な解放感
そういう僕の気分が
リンクされてる彼女に
伝達したのだろうか

なんの感情も湧かぬまま
戻一つ流せない僕はやはり
既に人外の物だったのかもしれない

わしには見慣れた
風景じゃ

カア

また
夜が来るのう

魔力を得た忍の肢体が
伸びやかに成長を遂げる



透明な肌が柔らかく
張りつめた弦のような
極面を揺く様を
目の当たりにし



にうじた
わしが怖い
我が主様よ



儼然とく目撃す
美を結実させ
化け物に感情していた



人と肌を交えるのは
何年ぶりのか

子でも孕めば
少しは空虚な気分も
埋めまろうか

羽川！

…誰を見たかは知らぬが
わしの実体が
変化したわけではない



違ふ…
僕は

世が果てて
誰に遠慮が
あるというのじゃ

ビクッ

こゝは正直じゃ

わしは本来、無じゃ空じゃ
観るものが求めるままの姿を映し出す
それを望もうが望むまいが



わしは人がその存在を
求めたからここにおる
わしが実在するならそれは
実在を望む者がおるからじゃ



そう望んでおるのは
お前様自身じゃ

痺れるのお

人の世の影に棲み
その血を身を吸り
命水らえた身じや

なのに何故じや
改めて死を目前としていざ
心躍るのは何所縁か

この世が滅せば
我れら怪異の身
も滅ぶは必定



死と生はその境界が
近づくほど命を繋ぐと
燃え盛るものらしい



燃る快楽の熱情とは逆に
僕の感情は醒めきっている



僕はとっくに人外のものに
堕ちているのだ



わしは今
それを実感してやる

はあ



最愛の女を敬愛する友を
家族を犯し
しかも果てること無く
無人の廃墟の中、
人で無いものと
交じり続けている

これこそが
生命の実感と
いうものじゃろうな



世界が滅んで
初めてわしはその境地に
達したとて「ハイハイ」



ハツドヘンデじや

買物語

高瀬乃々





せんばた楼個人誌
発行★2014年8月17日
執筆★せんばた楼
協力★高瀬乃々
印刷★株式会社ポプルス

連絡先★ senbata@mbh.nifty.com

